



2014 年 5 月 1 日発行

赤レンガ通信

〒272-0834 千葉県市川市国分 7-12-5 (NPO 法人いちかわ市民文化ネットワーク内)
TEL&FAX 047-711-8813
Eメール akarenga_2010@yahoo.co.jp HP <http://ichibun.net/akarenga>

「赤レンガをいかす会」

会の運営は、皆さんのカンパで支えられています。ご支援をよろしくお願いします。
No.7

2014 年新緑 国府台赤レンガ見学会(説明付き) 6 月 7 日 (土) 10:00~13:00

市川市国府台2丁目 旧千葉県血清研究所内
参加自由(少雨決行・申し込み不要)・参加費無料(カンパをお願いします)

春たけなわの今日この頃、皆様ますます御健勝のこととお慶び申し上げます。

千葉県市川市国府台2丁目の旧千葉県血清研究所跡地にある赤レンガ建築物の保存と有効活用を求めて、2010年2月に市民有志で「赤レンガをいかす会」を結成し、その存在を多くの県民に知っていただく活動とともに、管理者である千葉県庁との話し合いを進めてきて4年近くになります。

この間、県による土壌調査では有害物は特に危険値に至らず、文化財調査では「文化財的価値の高い建物で、保存と有効活用が望ましい」との報告も出ましたが、残念ながら事態の進展はありません。

一方で、3年前の東日本大震災の影響でしょうか、赤レンガ建築物の一部の瓦屋根がずれて、雨漏りが激しくなっているのは驚きです。「何とか応急修理を！」と県に要望し協議を進めています。

とはいえ、年に一度になりましたが、恒例の「赤レンガ見学会」が実施できることになりました。

皆さん、ぜひ再会をお楽しみくださるとともに、損傷の具合を見に来てください。

なお、2年に一度公演している「いちかわ市民ミュージカル」の第7回公演で、この赤レンガが舞台に取り上げられました。多くの県民に国府台赤レンガの存在を知ってもらう契機にしたいと願っています。8月31日(日)公演です。ご期待ください！

屋根の損傷と雨漏りがひどくなっています！

下の2枚の写真を見比べてください。

2011年と2013年に撮影した写真の比較です。東側の屋根瓦が崩れて蔦がはびこりだしました。内部では雨漏りが激しくカビも生え出しています。建築物はまず屋根から崩れていくそうです。何とか応急修理を急がねばならないと県庁との交渉を進めています。「専門家を混じえた市民の手で修理することも可能だ」と伝えてもいますが、早急には進展しないのが現状です。



(2011/11.撮影)



(2013/11/23 撮影)

国府台「赤レンガ武器庫」は日本の建築遺産

いま手を差し伸べなければ日本の近代化歴史の証人を失うことになる

建築家 高木彬夫

市川市国府台の畑や山林であった場所に、明治 18、19 年、全く新しい施設を建設して陸軍教導団が本拠を構えたことは周知のことです。

藩兵の集合であった日本陸軍の下士官養成のために作られた陸軍教導団は明治 32 年にその任を終え閉鎖され、施設はそのまま陸軍野戦砲兵連隊が使用することになりました。陸軍は戦局に応じて隊の構成を変えて、太平洋戦争終結までここに拠点を占めていました。近代日本陸軍の黎明から終焉までの歴史をこの地に辿ることが出来ます。

教導団に関連した施設は、明治 18 年には病院と兵営の一部が完成して歩兵大隊が配備され、翌 19 年には残る兵営が完成、砲兵大隊、工兵中隊、騎兵中隊、教導団本部の順で配備されました。同時に建設された道路（現県道）の工事は、囚人を使った熾烈を極めた突貫工事で、多くの犠牲者を出したと伝えられています。

教導団の諸施設に関する記録文献が少なく明確に断定することは難しいのですが、これまでの文献資料調査、関係者聞き取り、建物予備調査などによって「赤レンガ武器庫」は明治 18 年から 25 年の間に建築されたと考えられます。

軍事史的には明治 27 年頃に造られたと云う説もありますが、建築史的には明治 18 年から 25 年説が妥当と思われます。理由は「赤レンガ武器庫」が漆喰目地を使用したフランス積みで造られている事にあります。フランス積み工法は明治 20 年以降には殆ど使われる事が無くなり、替わってイギリス積み工法が採用される様になった事、漆喰目地は明治 24 年の濃尾地震の被害を教訓として、より強度に優れたセメントモルタル目地が変わった事などの理由があげられます。

煉瓦積建築術は幕末から明治初頭にかけて移入され、長崎のドックなどの建設に始まり、全国の土木、建築の分野で建設の近代化の幕開けを担いましたが、関東大震災（大正 12 年）による壊滅的な被害から以後は鉄筋コンクリート造が主流になりました。

この「赤レンガ武器庫」は上で述べたように、明治時代前期に建設された特徴をもつ数少ない事例です。現存する煉瓦建築物は約 300 棟（赤レンガネットワーク資料による）その大多数はイギリス積みで造られたもので、フランス積みのものは全国で 16 棟（当会調べ）にとどまる貴重な建築例なのです。

しかもそれ等の殆どが国指定重要文化財や登録文化財としてリストされています。また千葉県内に残る戦争遺跡は数多くありますが、完全な姿で残っている建物例は僅かです。

太平洋戦争の終戦後、陸軍施設は解体され一帯は学園地区に変わりました。その中に設立された千葉県血清研究所は戦後のワクチン製造の基地として重要な地位を占めてきましたが、平成 12 年に役割を終えて閉鎖されました。「赤レンガ武器庫」は血清研究所では倉庫として利用され、取り壊されずに残った唯一の建物です。他に一棟あった赤レンガ建築は、昭和 45 年に血清研究所の施設増設のために取り壊されました。



江戸川対岸よりみた「赤レンガ武器庫」右端の 1 列・2 列目に瓦のずれが大きく判る。2 列目・3 列目の中段部に実生の木が育っているのが見える。（2014/01/16 撮影）



上の写真の内部 敷桁、垂木、野地板など構造部に腐朽が進行している。煉瓦壁面にはカビが生えている。

（2013/11/23 撮影）

こうした歴史の流れの中で奇しくも残って来た「赤レンガ武器庫」は東日本大震災で倒壊は免れたものの、各所に被害を受け、特に屋根瓦がずれた隙間には飛来した植物の種が根を下ろし成長している様子が地上からの目視でもはっきり分かります。当然ながら雨水は内部に浸透して構造材に腐朽が始まっていて、これ以上放置できない状態にまで事態は進行しています。応急処置であっても即刻手を打たなければならない状況です。関係者のご理解と早急な対応をお願いしたいと切に思っています。

関東大震災にも耐えた「赤レンガ武器庫」、明治、大正、昭和、平成の 130 余年間を生き続けて来た日本の近代化の歴史の証人を、私達の代で失う訳には行かないのです。

この文章は、2014年3月1日、赤レンガの応急修理を求めて、千葉県庁に提出した要望書より抜粋したものです。「検討しますが、役所としての手続きが多種にわたり、時間がかかることを了承ください」との返答をいただいています。
編集部より



赤レンガ建物 トピックス



祝！

**中村邸 主屋・煉瓦蔵など建築群
市川市景観賞受賞
国文化財に登録**

中村邸は市川市鬼越、木下街道と千葉街道の交差点に在って明治中期ごろには陸軍の馬糧商として、大正期には味噌醸造業として栄えた。当時の住居を今も家族が使用している。

中村家歴代当主は文化面にも功績を残し、若かりし頃の東山魁夷氏を後援、氏はここに寄食し、制作に励んだ部屋も残されている。

祝！

**富岡製糸場と絹産業遺産群
世界文化遺産 登録勧告**

富岡製糸場遺産がユネスコの世界文化遺産登録の方向に動き出しましたね。心よりお祝い申し上げます。

我が愛する国府台赤レンガも、世界文化遺産とまでは言いませんが同時代に生まれた歴史的文化遺産であることは同じです。こうした文化遺産が消えることは、私たちの暮らしの歴史を失うことになってしまいます。ぜひ保存を実現したいものです。



月の雫 ～市川イーハトーボ物語～

我が「赤レンガ建築物」が舞台になります！

作・作詞・演出 吉原廣(赤レンガをいかす会代表)

皆さん、「いちかわ市民ミュージカル」をご存知でしょうか？

2002年8月より、2年に一度、子どもからお年寄りまでの三世代市民が一緒になって、ミュージカルを創造する喜びとともに、夏の4ヶ月に及ぶ長い暑い熱い稽古を通して、笑い、悩み、学び合い、「ここに一つの地域が生まれる」と言われるほどの豊かな交流を楽しんでいます。

また、14年にわたる公演活動を通して、これまでの出演者・スタッフ・協力者は4,000人以上、観客数は30,000人を越えて、その規模と舞台成果への高い評価を受けて、市川市民の誇りとも言える市民芸術文化活動に発展しています。

今年は第7回公演が開催されます。この間、市川市民でNPO法人いちかわ市民文化ネットワーク代表理事でもある私がすべての作品の作・作詞・演出を担当してきました。

「いちかわ市民ミュージカル」には大きな目的が二つあります。

(1) 創造の喜びと世代を越えた交流を楽しむ

子どもからお年寄りまでの三世代市民が、芸術文化の創造の喜びを味わうとともに、世代を超えて交流して互いに理解し学び合う。

(2) “わが街市川”を愛し絆を結ぶ

地域の現実や歴史や、人を知ること、わが街市川を愛するとともに、芸術・文化活動の喜びを通して絆を結び、文化的なまちづくりに寄与する。

市川市民以外の多くの方が出演参加されていますが、作品に登場する場所や歴史や事件はすべて市川市に関係する事柄です。「私たちの住む町をもっと知りたい。新しい地域愛を育みたい」という思いからです。

今回の公演では、我が愛する旧千葉県血清研究所の「赤レンガ建築物」を舞台に、我が愛する宮沢賢治ワールドをいっばいに、「生と死」をテーマに叙情的で活力のあるミュージカルを生み出そうと思います。

「赤レンガをいかす会」の結成に結びつく因縁を紹介します。

2006年9月の第3回公演「夏の光～空に消えた馬へ～」で、戦争中の中山競馬場を舞台にしました。日本軍部が「本土決戦に備えて、10万リットルのガスエソ菌血清を製造する」という命令を下し、500頭の馬を集めて血液全量を抜いて血清を製造しました。その作業に中学生が勤労働員されたのです。作戦を担った軍部研究所は戦後千葉県血清研究所に引き継がれ、陸軍演習場のあった国府台に移転しました。敷地内の武器庫として使用されていた赤レンガ建築物につながることになります。

旧研究所で働いておられた方や環境団体の方がこのミュージカルをご覧になっていて、「赤レンガを保存する会の代表になれ」という要請にお答えすることになったという訳です。

作者である立場を利用して、「赤レンガ」を舞台に仕立てて、多くの県民にその存在を知っていただくと思います。満月の夜、赤レンガから静かなピアノの調べが奏でられ、その音色は市川の空を覆い、心寂しい人たちを誘い込みます。そこには“怪人”が、そしてどういう訳か宮沢ケンジ君や井上ヒサシ君も住んでいて、「生と死の葛藤」を繰り広げるというドラマになります。

ぜひご覧いただきますようご案内申し上げます。なお、5月いっぱい出演者を募集中です。参加後希望の方、ご一報ください。

日時:8月31日(日) 12時30分&16時30分 2回公演

会場:市川市文化会館大ホール

主催:いちかわ市民ミュージカル実行委員会 共催:市川市文化振興財団